



# まほろん通信

VOL.22

(平成18年10月1日発行)  
(財)福島県文化振興事業団  
福島県文化財センター白河館  
〒961-0835  
白河市白坂一里段86  
TEL 0248-21-0700 (代)  
FAX 0248-21-1075  
URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



## 史跡見学ツアー

9月10日(日)、秋晴れのもと、まほろんイベント「史跡見学ツアー その1」が行われました。行き先はいわき市。朝8時すぎ、バスに乗り込んで、いざ出発。一路、目的地へと向かいました。最初に訪れたのは、いわき市考古資料館です。参加者のみなさんは、同館の見学がはじめてということもあり、職員の方の説明に耳を傾けながら、熱心に観覧していました。心地よい海風が吹く薄磯海岸で昼食をとり、午後は、平沼ノ内にある国指定史跡中田横穴墓の見学です。中田横穴墓は、内部の壁面に赤い顔料と白い粘土で、連続の三角形文が描かれていることで全国的にも著名ですが、この日は、その内部が見学できる特別公開日です。参加者のみなさんがもっとも楽しみにしていた場所だっただけに、担当職員の方の説明を聞きながら、鮮やかに彩られた文様に見入っていました。最後の見学場所は、平荒田目にある甲塚古墳です。水田のなかに円墳がひとつ。甲を伏せた形に似ていることから、甲塚の名がついています。見学の後、古墳の前で記念撮影をし、ツアーは終了となりました。

参加者のみなさんにとって、今回のツアーは、古代のいわきに想いを馳せながらの楽しい、そして有意義なものとなったようです。

## 体験学習

### 実技講座「埴輪づくり」

9月17日(日)に「埴輪づくりその1」を実施しました。関東から申し込んでいただいた親子がいるなど、大人気の埴輪づくり。あっという間に定員を満たし、多くの参加申込者にお断りせざるをえない状況でした。

今回の埴輪づくりは、一つのテーマを設けて参加者に埴輪を作成してもらいました。それは、泉崎村の原山1号墳出土の埴輪をみんなで作り、まほろんの復元古墳(時代や遺跡は違いますが)に並べて、参加者で記念写真を撮りましょう、ということでした。さらに、大きな目玉は、「まほろん窯」で埴輪を焼くことです。一昨年、実現できなかった窯での焼成。今年こそ成功させたいとの思いで、担当者もこの講座に臨みました。

土器づくりと同様、願わくば、原山1号墳出土の本



<埴輪に目を入れる>

### 5周年記念イベントのようす

7月16日～18日の3日間、まほろん開館5周年記念イベントが開催され、たくさんの方々が来館されました。

第1日目は特別体験として、弓矢体験と縄文クッキーづくりを行いました。クッキーづくりは縄文時代の家で行われ、試食は好評でした。



<白河天道念仏さんじもさ踊>

物の埴輪を見ながら作れると幸せなのですが、それは当然できません。模造品を参考に、写真と見比べながら、本物の2～3分の1程度の大きさのものを作ることとなります。土器づくりを経験された方もいましたが、参加者全員が埴輪作りが初めての方です。教える側も、形象埴輪の種類が多いだけに、前日までいくつも試しに作ったりし、正直、四苦八苦の状況でした。

さて、埴輪の製作です。最初に作りたい埴輪を選んでもらいました。作る難しさに合わせて、初級・中級・上級と埴輪を分けていましたが、受講生のみなさんは、意外にも難しいものを選びました。力士像、踊る埴輪、冠をかぶった男子、踊る男子、琴を弾く人、鳥…、どれも未知への挑戦です。

多くの方は、粘土紐を輪積みすることすら初めてです。最初は完成するのかなあと担当者自身も不安になり、作りやすいものから作ってもらえばよかったと感じました。しかし、粘土紐が一段一段積み上がるごとに、その手さばきは滑らかになり、みなさんとうとう最後まで見事に完成させることができました。

誰もが一番慎重にかつ苦心したのは、何と云っても埴輪の顔です。目の入れ方一つで、埴輪の表情が大きく変わります。何回もやり直す方、別の粘土で試しにやってみる方、出来上がった埴輪の表情はどれもやさしく微笑ましく仕上がりました。その後、受講生のみなさんたちはお互いの埴輪を鑑賞し、感想を述べ合い、和気合い合いとなりました。

10月21日にいよいよ「まほろん窯」での埴輪の焼成を実施します。その後、古墳に並べての記念撮影。楽しみです。焼くとまた、一段と見事な出来栄となることでしょう。



<縄文クッキーづくり>

2日目はまほろん文化財研修「しらかわのおどり」が一般公開され、無形文化財に指定されている踊り3つが披露されました。

3日目には「5周年だよ!まほろんボランティア2006」が実施され、様々なブースで体験活動が行われました。

今後もみなさんに楽しんでいただけるイベントを企画しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 開館5周年記念特別展のご案内

テーマ：「クロガネの鑄物」

展示期間：平成18年10月14日(土)～12月3日(日)

休館日：毎週月曜日・11月24日金

入館料：無料

まほろんは、今年開館5周年を迎えました。これを記念して、この秋、特別展「クロガネの鑄物」を開催します。

今から1,100～1,350年ほど前、福島県浜通り地方北部の相馬地方には、多くの製鉄工房がありました。ここでは、砂鉄から鉄をつくり、できた鉄を素材として鑄物製品もつくっていました。今回の展示は、この記録にも残っていない古代の鑄造技術、ひいては古代の製鉄技術をテーマとしています。

展示は大きく4つのコーナーに分かれます。最初は、今までに発掘調査が行われた古代製鉄遺跡の紹介です。製鉄炉や木炭窯の紹介や、出土した炉壁や炉底、羽口や土器を展示します。

次のコーナーでは、新地町向田A遺跡や相馬市山田A・猪倉B遺跡から見つかった鑄型や、こしき炉



<新地町向田A遺跡出土  
梵鐘鑄型と龍頭鑄型>

と呼ばれる鑄造溶解炉の炉壁などから、古代の鑄造について紹介します。鑄型にシリコンを流



してつくったシリコン模型から、  
<左の鑄型を基に復元した鉄製梵鐘>  
平安時代の造形美、精巧さを堪能ください。

3つめのコーナーでは、平成14年からまほろんで行っている研究復元事業の成果を展示します。鑄造遺跡から見つかった鑄型を基に作成した鑄鉄製品、これに係わる当時の鑄造技術、さらには製鉄技術を復元品を通して紹介します。

最後のコーナーは、これらの鑄造製品の用途と社会背景を探ります。これらの鑄型から作成した鑄鉄製品は、遺跡から確認できません。しかし、日本書紀などの記述から、大胆に仮説を立て、納品された場所や、その用途を推測しています。

この他、小さな手差し轡(ふいご)を使って、風をおこすコーナーや、鉄に関わる文献紹介などもあります。この秋、ぜひ、まほろんに足を運んで、古代の鑄造技術に『見て・触れて・考えて』みてください。



## シリーズ復元展示

前回に引き続き、いわき市中田横穴出土馬具の復元成果について紹介します。

前回、中田横穴の調査で出土した多くの馬具が、1頭分であるのか、複数頭分であるのか検討を行ったと書きましたが、これを推定するキーワードは、馬装の構成でした。

古墳時代、馬の飾りは、大きく分けて頭・胸・尻の3カ所に装着されます。この他、人を乗せる台として鞍(くら)があり、馬に乗ったり、早や駆けしたりする時に必要な籠(あぶみ)や、馬をコントロールするための轡(くつわ)などがあります。

出土した中田横穴の馬具資料は、報告書にまとめられる段階で、すでに1点1点これらの装飾箇所の推定がなされていました(1971「いわき市史別巻中田装飾横穴」いわき市)。この報告書をベースに、再度検討を行った結果、当初に推定した装飾箇所が概ね妥当であり、副葬された馬具資料は、1頭分であることが理解されました。

ただ、実際に馬具資料を復元する担当者から、大きな疑問が提示されました。それは、「鉄板を止める鉤の大きさがあまりにも不揃いであり、革帯を飾る金具も企画性がなくバラバラであるため、本当に1頭分と推測できるのか。」という意見でした。

確かに、下の写真で示したように、馬のお尻を飾る杏葉(ぎょうよう)と呼ばれる飾り板に見られる鉤と、その隣の鞍を飾る磯金具(いそかなぐ)と呼ばれる板を止める鉤は、その形状、大きさがあまりにも異なっています。

これは、たとえば、一つの装飾品をつくるのに、あるところは大きい鉤、あるところは小さい鉤を使うといった、アンバランスな完成品にたどることができてもかもしれません。このアンバランスさは、まほろん開館時に作成した白河市<sup>ざるうち</sup>第37号横穴墓出土馬具では認められない現象でした。逆に言えば、これが中田横穴出土馬具の最大の特徴であり、その背景を探ることは、当時の鞍づくり工人たちの特徴を把握することにつながるものと思われま



<杏葉>



<鞍の磯金具>

## 研修だより

### 10～12月文化財研修のご案内

青空に紅葉が映える知識の秋にふさわしく、魅力あふれる研修を企画しております。

10月11日～12日は会津若松市郭内武家屋敷遺跡において発掘調査支援システム活用研修を行います。トータルステーションとパソコンを組み合わせたデジタル測量と図化ソフトによる作図実習です。

10月14日は、体験学習支援研修4「火打ち金づくり」を行います。火おこし具づくりを通して火の歴史などについて研修します。体験活動を学校教育や公民館活動などに取り入れる方にお勧めの研修です。

10月21日～22日は土器復元研修を行います。松本友之先生を講師にお招きし、土器破片接合から欠損部の石膏補修と彩色に至るまでの技術を、長年にわたり高度な土器復元に取り組まれている先生の懇切丁寧な指導により身につけていただきます。

11月11日～12日は、南相馬市博物館において無形の文化財研修Ⅱを行います。文化財保護法の改正に伴い「民俗技術」が「無形の民俗文化財」に加えられ



#### <鈴木勉先生による講義>

でしたが、今回はその調査と記録作成方法の研修です。

11月18日～19日は時代別研究研修を行います。今回は縄文時代中期前半で、大木6式～7b式期の土器について、まほろん収蔵の資料の展示と併せて解説を行います。

12月23日は、体験学習支援研修5「アンギンづくり」を行います。古代の編み具「アンギン台」を用いて、布の編み方を研修します。アンギン編みを学校教育や公民館活動などに取り入れたい方にお勧めの研修です。

## シリーズ収蔵品紹介 1

### 高木遺跡の土偶

収蔵品紹介の第2回目は、本宮町高木遺跡から発見された縄文時代の土製品「土偶」を紹介します。

高木遺跡は、本宮町の阿武隈川東岸に営まれた縄文時代の遺跡(今から約3,800～4,000年前)です。高木遺跡からは、破片も含め約20点の土偶が見つっています。

土偶は、乳房やおなかが膨らんだ(妊婦)ものが多いことから、女性を形取ったものと考えられています。どのように使われていたのかは明らかではありませんが、病気など人の身代わりとして体の悪い所を意図的に壊す、安産祈願、地母神像などの説があります。これらの土偶は、縄文時代の各時期、地域によって表現に違いがあります。

高木遺跡で見つかった写真の土偶は、乳房がついているので女性と考えられますが、形が男性器を表しているので、1つの土偶で男女両性を形取っています。また、体に描かれた模様をよく観察すると、



両面に狩猟に関する人体が描かれており、形状と文様いずれも非常に珍しい土偶です。

## まほろんからのお知らせ

### HP 20万アクセス達成

9月2日に開館の年から足掛け5年少しで、ホームページのアクセス数が20万件を突破することができました。

これからもコンテンツの充実に努めますので、是非ご覧くださいね。



### ご利用案内

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただし夏休み期間中は開館) 国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館) 年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 無料(体験学習は、材料費が必要な場合があります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。